

学習塾・予備校・私立学校は下村・教育改革の先取りを
—下村博文・文部科学大臣の再任を祝して—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：9月3日の内閣改造で、下村博文先生が安倍首相により文部科学大臣に再任されましたね。下村先生に期待することは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)同じ学習塾の経営者として学習塾のあるべき姿や日本の教育の未来を語り合った下村博文先生が文部科学大臣に再任されたことは、自分のことのように喜ばしく思います。本当におめでとうございます。

(2)下村先生に期待することは唯一つ。先生がお考えになった教育改革を最後の最後までやり抜いていただきたいということだけです。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者やそこで教える先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)文部科学大臣で我々のお仲間である下村先生が中心となってお進めの教育再生会議や中央教育審議会をはじめとする文部科学省での議論の動向をHPやメルマガなどで注意深く見守り、まずは正確に理解することです。

(2)その上で、御自分のお仕事に関係することで改革の対象となっていることを今後どうしたらよいかを、改革案の工程表を見ながら考えることを御提案します。

(3)文部科学省が最も重視しているOECDの教育政策もHPや明石書店からの単行本などで研究すべきです。

Q：例えばどういうことですか。

A：(1)文部科学省は2018年を目標にグローバル化に対応した英語教育改革の実施を計画しています。

(2)公立小学校では、3・4年生は週1～2コマ程度、5・6年生は週3コマ程度の正規の英語の授業が行われる予定です。

(3)中学校では、授業を英語で行うことが基本とされています。

(4)高校では、授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化し、発表・討論・交渉等を英語で行う能力を身に着けることを目指しています。

(5)そのために、小・中学校、高校における指導体制の強化や外部人材の活用促進、指導用教材の開発が行われるようです。

(6)小中高の各段階で英語教育を充実して英語力を向上させ、高校卒業段階で英検 2 級～準 1 級、TOEFL iBT57 点程度以上等を目指す。外部検定試験を活用して英語力を検証、大学入試には 4 技能を測定できる英検、TOEFL 等の資格・検定試験活用の普及・拡大を目指しています。

Q：林さんは、我々にどうしろと言うのですか。

A：(1)2018 年の英語教育改革は近くまで迫った現実として直視すべきです。下村先生の教育改革はすべて本格的なものです。豪速球のストレートでずばっと来ます。

(2)小学校 3 年生から英語が正課となったとき、我々は何をすべきか。中学校や高校で英語の授業が英語で行われ、大学入試センター試験の代わりに 4 技能のはかれる英検が入るとき、我々は何をすべきか。本気で考え、あらゆる準備をすべきです。

(3)公立小学校で 3 年生から英語が教えられるようになれば、当然、私立中学校入試に英語が出題されることは容易に想像されます。入試にはなくても、英検などの取得状況が有利に扱われると想像されます。

(4)小学校で英検 3 級取得はあたりまえの世界が必ずやってきます。そのとき中学校、高校はどうなるか。中 3 で英検 2 級、高 3 で英検準 1 級もあたりまえとなります。

(5)中学校や高校で英語の授業が英語でなされるようになれば、英語での数学や理科の授業があたりまえになる日も近くなります。英語以外の外国語の指導も、小学校からどんどん増えてきます。

(6)大学からではなく高校から海外へ留学する人が増え、海外からの留学生もそれ以上に増えてきます。

(7)外国人の先生やスタッフを採用しなければならない場合もどんどん増えてきます。

(8)経営トップや経営幹部を外国から迎えることも、少しも珍しくなくなります。

(9)WTO や経済連携、FTA や TPP などが進めば進むほど、外国への展開や外国から日本への参入もあたりまえのように行われると思われれます。

Q：林さんは何が言いたいのですか。

A：(1)2018 年の英語教育改革は、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催でより本格化することが明らかになりました。

(2)この英語教育改革で、日本人はやっと英語によるコミュニケーション能力を身に着けることができます。

(3)この改革を成し遂げるには、公立学校だけでは困難を極めます。我々、学習塾・予備校・私立学校こそ下村先生の教育改革の先頭に立ち、ありとあらゆる準備をした上で着実に実行に移したく考えます。

Q：下村大臣の改革は英語教育改革の他にもありますか。

A：(1)あります。文字通り山ほどあり、その多くが我々の事業領域の中にあります。

(2)学校法人をお持ちの方にお勧めなのは、高等専門学校の設定です。高等専門学校は工業以外にもサービス産業、介護・福祉、観光など様々なニーズがあります。十分に調査・研究の上、担当者をお訪ねになり御指導をいただくことをお勧めします。

(3)社会人の学び直しで最も人気があるのは、60歳以上の方々を対象としたICT教室です。

(4)理数人材の本格的な育成は、学習塾の最も得意とするところですが、学校の補習や入試指導に飽き足りない先生は本格的に御指導するのはどうでしょうか。

(5)有難いことに、教育開発では「新中学問題集」の数学と理科の英語訳版を来春から徐々に刊行してまいります。近くの大学の大学院生を講師に英語による中学数学、中学理科の授業をすることは、「英語に浸る教育(English Immersion Education)」として極めて高く評価されます。開倫塾でも行いますので、是非、皆様もお取り組みください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も皆様と御一緒に読みたい本がたくさんあります。

(1)すべてを英語で教えるインドの低価格私立学校のことは何回か御紹介させていただきましたが、ようやく日本語による本格的な研究書が単行本として刊行されました。小原優貴著「インドの無認可学校研究—公教育を支える「影の制度」」東信堂 2014年3月31日刊です。

(2)以前御紹介した石田梅岩著の「都鄙問答」(岩波文庫)は再刊本も絶版で入手困難とのお問い合わせがありましたので、由井常彦著「都鄙問答—経営の道と心—」日経ビジネス人文庫 2007年10月1日刊をお勧めいたします。山岡正義著「魂の商人、石田梅岩が語ったこと」サンマーク出版 2014年8月5日刊はととてもわかりやすく、柴田実著「石田梅岩」(人物叢書)、吉川弘文館 1988年刊との併読をお勧めします。

— 2014年9月7日林明夫記 —